

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700413		
法人名	医療法人福嶋医院		
事業所名	グループホームいるかの家		
所在地	浅口市寄島町16089-16		
自己評価作成日	令和3年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和3年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の入居者との意思疎通は、完璧な形で行うことは難しいが、それでもスタッフは一人一人の入居者と真摯に向き合い、入居者が毎日笑顔で暮らせるように、親切で明るい声掛け、自己決定の尊重、自立支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護老人保健施設の敷地内の一角にある古民家風の平屋の建物です。法人の一事業所として、医療などの恩恵を含め、さまざまな影響を受けながら、グループホームらしさへのこだわりをもち、上記(事業所記入)の実践に努めています。コロナ禍で入居者、家族、地域とのコミュニケーションをどう図っていくか、また今出来ることは何か、等々検討し、模索しながら取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で、法人の理念を唱和し確認している。また、新しいスタッフも増えたため、事業所の理念、目標についても作り直す予定。	グループホーム自体の理念・目標を介護される側の視点から具体的に考察し、それぞれの職員から意見を出し合って作成しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により、地域に出ることが困難な状況が続いている。	本来法人で一括購入しているもののなかで、グループホーム単独で馴染みの地域の業者に注文し、事業所自体が地域の一員として交流するよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、法人ではセミナーを主宰し、地域の方に認知症について発信してきたが、これも開催が困難な状況にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでは、2か月に一回運営推進会議を通して、グループホームの取り組みや、現状についての報告を行い、評価や意見を求めてきた。	コロナ禍で人が集まったの通常会議をする事が難しい現状で、紙面による報告を行っています。今後はより多くの意見を取り入れる為、WEB会議の実践を検討しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢者支援課の方にも、運営推進委員に参加してもらい、グループホームの運営や活動などの現状を報告すると共に、相談に乗ってもらう機会を作っている。	法人自体が地域の医療機関として根付いており、地域の災害時の避難拠点の役割をめざす中、事業所も認知症の専門家として連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の業務カンファレンスや、毎日の申し送りの中で、身体拘束がないか検討している。	毎月のカンファレンスや毎日の申し送りの中の実例をもって、身体拘束について勉強しています。具体的な言葉遣いや介助の仕方を検討し、拘束しない介護に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内で、虐待について勉強会を行ったり、法人で行われる『虐待について』の勉強会に参加して、不適切なケアがないか、虐待に係っていないか振り返り、ケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、外部の研修も含め、そのような機会を持てるように検討していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や、重要事項説明書、運営規定などについて説明し、ご理解いただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまで、面会や電話連絡を利用して、ご家族との交流を図ってきたが、今後、ラインその他の方法も活用していきたい。	家族会はあるが、コロナ禍で集まらない現状です。家族に様子を伝えたり、意見を聞き反映させられるようにWEB等を駆使した機会作りを検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務カンファレンスでは、職員全員の意見を集めるようにし、必要な事項は月2回行われる主任会議で、法人に伝えるようにしている。	入居者の介護度によって畳部屋での生活が負担になる人もおり、部屋をバリアフリー化するなど職員からの積極的な意見が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、率直に意見を述べる事が出来る雰囲気づくりをする事により、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、グループホーム内での勉強会を行うとともに、職員に外部研修への参加に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やセミナーへの参加を通して、交流の機会を求めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテークによって、身体状況や、性格、生活歴などの情報を得る。また、ご本人とのコミュニケーションをしっかりとることによって、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面接や、面会時にご家族の思いを聞くようにしている。が、コロナウイルスの影響で難しい状況にある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や、ご本人の要望を、ケアプランに反映させるため、介護士、看護師、必要に応じて栄養士、作業療法士に意見を聞き、いち早く暫定プランを作成する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を把握して、自立支援を行う。家事にも参加してもらう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過で、面会が難しいがLINEや、メール、電話連絡を使って、日々の様子をお伝えしたり、毎月、事業所の広報誌を作成送付している。体調等変化があった際には、すぐに報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活との連続性を考慮して、出来るだけ馴染みの物を使用したり、居室に置いたりしている。	本人の生活歴を聞いたり、入浴中のリラックスタイムに聞いた事柄をつなげて、馴染みの人や場を理解する支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者同士の会話、表情に注意を払い、相性を見て席を決めたり、スタッフが間に入って話題を提供することで、楽しく生活できる環境づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後に利用される施設や、ケアマネジャーに、速やかに生活状況や、身体状況など、必要な情報提供を行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中の会話や、状態観察などによって、思いや意向の引き出せるようにしている。	思いや意向をはっきり言える人は少なく、逆に嫌がることを把握して本人本位に暮らせるよう支援に努めています。	その人らしい生活を維持するため、レクリエーションや個々の残存機能を大切にされた支援に、これからも努められることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に支援事業所から得られた情報や、家族や本人からの聞き取りを通して集めた情報を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、毎日の申し送り、連絡ノート等を使って、入居者の日々の変化を共有するとともに、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の業務カンファレンスで、情報を集約し検討することによって、時々に応じた適切なケアを見出し、ケアプランに反映している。	家族の希望や日々の生活での気づきを大切にしながら、医療関係者など(ケアマネジャーが看護師)の専門性を生かし、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りを通して、入居者の変化を共有しスタッフが個々に介護記録に目を通し、ケア方法を見直し、実践したことを記録に残すことで、次のケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者個々の必要を把握して、柔軟なケアに生かせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとに花を観に出掛けたり、買い物に出掛けたりしていたが、コロナウイルスの影響で、困難になっている。今後、出来る事を検討していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、訪問診療を受けている。また、体調に変化があった時は、いつでもかかりつけ医に相談している。	定期的な訪問診療を受け、専門医の受診が必要な時は紹介状を書いて、適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、当事業所にも、常勤の看護師がおり、相談対応が出来る環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、いつでも速やかに情報を提供できる。また、入院中も家族や病院と連絡をとり、現状把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	継続的な医療処置が必要になった時や、今後その必要があると判断された場合は、早い段階でご家族の思いを聞き、家族と医師と話し合いの場を設け、支援に取り組んでいる。	医療法人の一事業所なので、その強みを生かして家族の思いや状況の変化など、経験を生かした細かい支援ができるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホームでの勉強会を通じて教育を行ってきたが、最近行えていない、新しい職員が増えたので、早急にその場を設けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、防火訓練、災害時の避難訓練を行っている。	火災では初期消火の訓練をシミュレーションし、避難は時間が掛かるので、法人グループ内での応援態勢のもと早め(避難勧告発生時)に本館へ避難するようにしています。	事業所を含め法人グループは昨今の風水害、地震による液状化に備え、基礎工事のしっかりした建物に、地域の避難拠点の役割を担えるよう取組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人個人を尊重した言葉かけ、対応をしている。	入居者と方言によって会話することで距離感が縮むが、馴れ合いにならないように基本に戻ることを大切にしながら支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけをする時は、相手の意思を尊重し、無理強いをしないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活ではあるが、中でも入居者個々のペースを尊重した対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を心がけ、身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の下膳をしてもらったり、時折おやつ作りを楽しんだりしている。	入居者の嚥下状態に応じた食事を提供し、食事の進まない方には言葉かけをして完食できるよう支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事、水分の摂取量を記録している。状況に応じ、隣接する老健の管理栄養士に相談して、水分や栄養が不足しないように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後、洗面所に誘導して、口腔ケアの支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使って排泄間隔を把握したり、排泄の事前行動を見つけたりして、トイレ誘導することによって、排泄の失敗が減るように支援している。	プライバシーに配慮しながら、一人ひとりの力や排泄パターンを理解し、トイレ誘導をするように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂れるように支援したり、体を動かすように促したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間にとらわれずに、出来るだけ希望を考慮して入浴出来るようにしている。	入浴拒否する方もいますが、入浴後は「気持ちよかった」といってくれます。職員は、入居者の健康を考慮した上、安全を期するため老健Drが居るときの(時間)入浴に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ、入居者個人個人のペースを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の情報は、介護記録と一緒に保管してあるので、いつでも見ることができる。また症状に変化があった時は、速やかにかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、ご本人の希望を考慮し、個別レクリエーションや集団でのレクリエーションを用意、行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花を観にドライブに出掛けたり、外食に行ったりしていたが、コロナウイルスの影響でできていないため、出来る支援を検討していきたい。	コロナ禍で、外出・外食に出かけることは困難な状況だったが、それぞれ体調を見ながら敷地内の散歩に出かける等、閉塞感を和らげられるような支援に努めています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在グループホームでは、お小遣い等、現金を扱っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使う事は可能である。年賀状の届くご家族もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングを二つに分けることによって、少人数でゆったり過ごせる空間としている。また、季節の飾りつけなどをして楽しい雰囲気づくりをしている。	落ち着いて団らんを楽しめるような雰囲気作りに努めています。少人数で集まり、ゆったりと団らんをしている様子が伺えました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の相性を考慮しながら居場所は決めているが、固定されたものではなく、自由に移動できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご家族に馴染みの物を持ってきてもらえるようお願いしている。また、入居者の必要に応じて、ベッドの位置や家具の配置を変えて、安全に安心して部屋を使えるように支援している。	入居者の介護度によって畳の部屋が負担になる人もいるので、部屋をバリアフリー化するなど居心地よく過ごせるような工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の見当識に配慮して、わかりにくい時は、トイレの表示を行ったり、居室に目印を付けたりしている。		